

尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策方針（概要版）

| | |
|----|---|
| 背景 | 二ホンジカの 増加・分布域の拡大 × 日光と尾瀬を 広域的に移動する個体群 の存在 |
| | ↓ 関係機関・団体が 広域的に連携して、個体群の管理や各種対策を実施する必要 |

| | | |
|-------|---|---|
| 現状と課題 | ■尾瀬ヶ原・尾瀬沼 シカの確認数や被害状況が増加傾向 > 生息密度減少のための捕獲強化 > 植生保護柵の迅速な設置 | ■移動経路上 最も捕獲効率は高いが、捕獲の期間・場所に空白 > 特に春の捕獲強化 （指定管理鳥獣捕獲等事業を活用） |
| | ■越冬地 標高の高い越冬地での捕獲不足 > 高標高域越冬地での捕獲強化 （足尾地域など） | ■分布拡大域（会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山） 食痕増加・範囲拡大、高山域での捕獲が困難 > モニタリング調査による捕獲適地検討 > 状況を見つつ植生保護柵の検討 |

| | | |
|---------------|--|---|
| 最終目標 (ゴール) | 日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系 | 尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系 |
| | シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持 | 尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持 |
| (5年目途) 事業目標 | > 植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に > 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、防護柵を適切に設置・維持管理 | > 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減 > 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置 |

| | | |
|------|---|---|
| 実施方針 | 捕 獲 | |
| | (1) 共通事項 ・ 効果的・効率的な捕獲、利用者等の安全対策、自然環境への配慮、捕獲個体の処理、捕獲の実施主体、関連法令等の遵守 (2) 奥日光・足尾周辺地域 ・ 定住型個体(通年)及び移動型個体(晩秋～冬)の捕獲 ・ 足尾地域高標高域での捕獲検討 ・ 捕獲適地や適期の検討のための情報収集 | (3) 片品・檜枝岐地域(移動型個体の移動経路上) ・ 集中通過地域での効果的・効果的な捕獲 ・ 関係機関で連携した効果的・効果的な捕獲 ・ 定住型個体の通年捕獲（有害・管理捕獲） (4) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼地域 ・ 春から晩秋にかけて移動型個体の捕獲 (5) 会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山周辺地域 ・ 生息状況調査の結果に基づき捕獲 ・ 捕獲を効果的に実行するための体制整備 |
| | 植生保護 | モニタリング |
| | (1) 日光国立公園 ・ 既存防護柵の維持管理、植生の回復、保全対象種の衰退防止 ・ 防護柵の効果検証 ・ 防護柵の設置検討(鬼怒沼、女峰山、太郎山) (2) 尾瀬国立公園 ・ 優先防護エリアのA及びBランク区域への5年以内の防護柵の設置 ・ 防護柵の効果検証 | (1) モニタリング ・ ①生息状況の把握、②植生影響の把握、③対策の効果検証の3つの観点から実施 ・ モニタリングの継続、事業目標の達成に向けた進捗の把握によりPDCAサイクルを回転 ・ データの収集・蓄積が効果的に行える手法、共通様式の導入 (2) 調査研究 ・ 移動型個体群を含むシカの動態や植生への影響等に関する調査研究の推進 |